



玉川の園

学校、家庭、地域をつなぐ
学校だより 第2号
令和5年7月12日



未来の創り手となる心豊かで意欲と実践力のある人間の育成 ~ 自律・友愛・創造 ~

文責 奥村真美

「平和な世界のために 私たちにできることは何だろう？」

～ 沖縄を訪れて考えた3年生 ～



平和宣言文

私たちの住む草津から南西に約1240km、ここ沖縄県読谷村は、梅雨も明け、また暑い夏がやってきました。空港から出たときの暑い空気。バスから見た明るい風景。目に映るすべてが美しい、空と海とがまじりあう自然。

78年前に沖縄であったことを、これまで私たちは勉強してきました。

戦争という、明日のことさえわからない中、毎日をどんな思いで生きてきたのでしょうか。

きっと、それぞれに将来のこと、好きなこと、やりたいこと、家族や大切な人、行ってみたい場所、明日への希望や思いが溢れるほどあったはずだと思います。

その思いを胸の奥底にぐっとしまい込み、苦しい、窮屈な生活をしなければならなかったのでしょうか。

なぜ、この争いに一般人が巻き込まれなければならなかったのか。

当時の日本の、今では考えられない常識や人々の気持ちは想像することすらも安易ではありません。

今、ウクライナでは戦争が起きています。

私たちはその様子をニュースで見ても、非日常的な恐ろしい様子から、まるで映画のワンシーンのような錯覚に陥ってしまいます。しかし、この現実、現代を生きる私たちにとって決して目を逸らしてはならないものです。

78年前の歴史が、今、再び繰り返されているのです。

思いを継ぎ、声を上げなければならないのです。



<1組>

戦争が生むのは血と涙、
一つひとつの命が奪われていく。
平和が生むのは笑顔と友情、
笑顔の世界こそ平和である。
しかし、平和が永遠に続くとは限らない。
きっかけなんてすぐに生まれる。
それを防ぐのが私たちだ。
私たちにできることは、きっかけを作らないこと。
平和について考える。
相手の立場で考える。
そうして笑顔が生まれていく。
世界中に、毎日平和が訪れる時代がくることを、
心から願っている。



<2組>

私たちが見て聞いた、
伝えられたかつての惨状を忘れない。
決して風化させないこと。
過去を未来にしないこと。
すべての人が平和に生きる権利があるとは言うが、
その権利が守られているとは言い難い。
尊いはずの命の価値が失われ、
軽く扱われてしまうことがある。
だから私たちは、この命の重みを忘れないように、価値を
示しながら生きていかなければならない。
ふと思い出し、感謝しながら、命を、他者を、
自分を蔑ろにしないように。
過去を懸命に生き、
その価値を私たちに伝えてくれた人たちのためにも。

<3組>

罪なき人の被害を少しでも減らす。
つらい経験をした人の気持ちを尊重する。
命の大切さについてよく考えて、
生きる事や笑顔があふれる世界を作る。
平和とは戦争のない状態のこと、
戦争をしても誰にも利点がない。
だから意味のない戦争を
決して私たちが繰り返してはいけない。
私たちが、今ここに生きていることを
当たり前だと思てはいけない。
悲惨な過去があったからこそ、
私たちが今、安心して生活ができています。
そのことを実感しながら、
すべてのことに感謝をして生きていかなければならない。
今、私たちは過去の人々にこたえるために、
何ができるか考えるべきだ。
今できることは幸せに生きること。
楽しんで生きること。

<4組>

私たちが、今この瞬間、平和に生きられているのは、何気
ない日常を送れるのは、ただの偶然で、今世界のどこか
で戦争が起こっている。
ここ日本でも昔戦争が行われていた。
被害にあった人の苦しみは、
今の私たちには想像できないかもしれない。
戦争について分かり合うことはできなくても、
分かろうと努力することは大切である。
私たちの命は、数多の人々の奇跡の結晶である。
だからこそ森羅万象に感謝し、
全ての生命がその命を全うし、幸あらんことを願う……

時代を越えた過去の思いを、美化されない事実を、
今を私たちが、この価値を忘れず生きていくことで、
将来の人たちに伝えていくことをここで宣言します。

2023年6月20日



滋賀県草津市立玉川中学校3年生一同



一泊目の夕食後、『カチャーシー』をみんなで踊り、喜びを共有して一体感を味わいました。二日目、地域ガイド風の会の比嘉さんから『命どう宝』という言葉聞き、その思いを込めてチビチリガマ前で平和の誓いを述べました。三日目の別れ際に、バスガイドさんの歌う『ゆいまーる』に掛け合いを加えて、その歌の意味を実感しました。これら、沖縄での経験全てが、これからの人生を平和に生きて行く、貴重な学びになりました。